

薬 剤 名 [委 託 者]	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量(/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
3. CG-119・P 細粒 (つづき)	落花生	実・継	土 壌	播 種 後	500～600g	火山灰土	暖 地	継：地域拡大（寒冷地・温暖地）。 マルチ栽培での検討。
	とうもろこし	実	土 壌	播 種 後	500～600g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	
						火山灰土	暖 地	
	甘 しょ	実・継	土 壌	播 種 後	500～600g	火山灰土	温 暖 地	継：適用土壌の拡大。
						全 土 壌	暖 地	
[日本チバガイギー]								
4. KUH-813 細粒	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	500～600g	火山灰土 を除く全 土壌	寒 冷 地 温 暖 地	<u>水田転換畑でも使用可能、ただし砕土・覆土はていねいにする。</u> 継：適用土壌、地域の拡大。
[クミアイ 化学工業]								
5. MSR-81㊟ 細粒	大 豆	継						継：初年目（有望）。
[丸和ハイオケミ カル・昭和ロ ーディア化学]								
6. S-28UA 細粒	ばれいし よ	継						継：初年目（有望）。
[住友化学工業]								

注). アンダーラインは、本年度拡大された部分（なお、薬剤名のアンダーラインは本年度始めて使用基準の作成されたもの）。

昭和57年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和57年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、昭和57年12月7日(火)、12月8日(水)、協和銀行秋葉原支店会議室において開催された。

水稻作関係生育調節剤試験は、作用性13剤(のべ45点)、適用性17剤(のべ158点)について行なわれた。本年度新規に実用化可能の判定を得て、使用基準の作成されたものは、S F -

8002粉剤（ムレ苗防止）であった。

基準が作成された。

また、畑作関係生育調節剤は、適用性3剤
（のべ6点）の試験が行なわれ、HOK-811
水溶剤が新たに実用化可能の判定を得て、使用

なお、薬剤別の判定結果および実用化薬剤の
使用基準は、次表の通りである。

昭和 57 年度 水稻・畑作関係生育調節剤供試薬剤判定および使用基準一覧表

水 稻 関 係

薬 剤 名 (委 託 者)	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1. BAS-106 水和 〔BASF〕 〔ジャパン〕	5-(4-クロロ フェニル)-3,4, 9,10-ベンタザ ーテトラシクロ[5, 4,1,0 ^{2,6} ,0 ^{3,11}] ドデカ-3,9-ジ エン ……………1%	〔作用性〕 ①効果と温度の関係。 ②播種量の増量。 ③施肥管理の簡略。 ④窒素施肥量増加につ いて。 ⑤本田生育への影響。 〔適用性〕 ①健苗育苗(徒長防止)。 ②健苗育苗(老化防止)。	継		- 作用性の明確化。 - 適用条件の検討。 - 土壌の種類と効果の関係。
2. CGR-811 水和 〔中外製薬〕	4-クロロ-2- (α -ヒドロキシ ベンジル)イソニ コチンアミド ……………50%	〔作用性〕 ①処理法による有効性- 混和、浸漬、播種前 処理。 ②薬量差。 ③温度差。 ④品種差。 〔適用性〕 ①苗質向上。 ②稚苗の徒長・劣化。 ③中苗の徒長・劣化抑 制。	継		- 作用性の明確化。 - 適用場面の検討。 - 土壌の種類と効果の関係。
3. GF-030 液 〔日本グリーン〕	マイクロクリスタ リンワックス ……………10%	〔適用性〕 ①苗質向上(しおれ防 止)。 ②苗質向上(ムレ防止)。	実・継 中止	1.5～2.0葉期(むれ 苗発生前)に20倍液 100～120ml/苗箱, 400～450ml/㎡苗床 を苗箱(床)葉面散布。	効果・薬害の確認。
4. イソプロチオ ラン 粒 〔日本農薬〕	ジイソプロピルー 1,3-ジチオラン -2-イリデンマ ロネート ……………12%	〔作用性〕 ①ムレ苗発生抑制の作 用性の解明。 〔適用性〕 ①処理方法とムレ苗発 生抑制効果・実用性 の確認。 イ 育苗用土混和処 理。	実・継	緑化始期に25～50g/箱 を土壌表面散布(全域)。	- 土壌混和処理の効 果確認。 - 設置床施用につい て更に検討。 - 土壌条件・種類に ついて。 - 地域性の検討。

薬 剤 名 〔委 託 者〕	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
4. イソプロチオ ラン 粒 (つづき) 〔日本農薬〕		ロ 育苗箱設置床表面散粒処理。 ハ 緑化始期育苗箱処理。			
5. イソプロチオ ラン 粉 〔日本農薬〕	前 掲 ……………40 %	〔適用性〕 ①ムレ苗発生抑制効果 ・実用性の確認。 緑化始期灌注。	継		・効果認められるが 薬害等について検討。
6. NK-191 粉 〔日本化薬〕	4-メチルスルホ ニルオキシフェニ ル-N-メチルチ オールカーバメー ト ……………10%	〔適用性〕 ①ムレ苗の予防効果。 播種前育苗箱用土混 和処理。	実・継	・6～8 g / 箱 を土壌 混和処理 (全域)。 育苗方法は箱積方式と し、砂質土壌を除く。	・温度反応、体系処 理の必要性につい て検討。
7. NK-191 粉 → NK-191 水和 〔日本化薬〕	前掲 10% (粉) →50% (水和)	〔適用性〕 ①健苗育苗・初期生育 の調節 (根の生育促 進, 地上部の徒長防 止など)。 ②本田における生育促 進 (活着促進など)。	継		・タチガレンと同等 の効果あり。 温度反応、体系処 理の必要性につい て検討。
8. NTN-821 水和 〔日本特殊農薬〕	成分未公開 ……………5 %	〔作用性〕 ①徒長防止。 ②植傷み防止。 ③育苗期間の調節等 に関する処理方法・時 期・薬量の把握。	継		・成分未公開。
9. PP-333 フロアブル 〔アイシーアイ ジャパン〕	成分未公開 ……………2 %	〔作用性〕 ①稚苗中苗の徒長防止 ・老化防止。 ②根の伸長促進・活着 促進効果。	継		・成分未公開。
10. SF-8002 粉 〔三 共〕	ヒドロキシイソキ サゾール ……………4.0 % メタラキシニル ……………0.5 %	〔作用性〕 ①ムレ苗症防止。 〔適用性〕 ①ムレ苗防止。	実・継	・8～12g / 箱 を床土混 和。	・土壌種類別の検討 (草丈の伸長・生 育抑制についての 検討)。
11. TPNベノミ ル 水和 〔ダコレート〕 普及会	テトラクロロイソ フタロニトリル ……………50% メチル-1- (ブ チルカルバモイル) -2-ベンゾイミ ダゾールカーバメ イト ……………20%	〔適用性〕 ①ムレ苗に対する防除 効果。	継		・処理時期、条件な ど更に検討。

薬 剤 名 〔委 託 者〕	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
12. SZ-8028 A液 〔三 共〕	ハイメキサゾール ……………6.0% D, L-メチオニン ……………10.0% ABA ……0.01%	〔作用性〕 ①稲登熟期の低温条件下における登熟向上。 〔適用性〕 ①稲登熟期の低温条件下における登熟向上。	継		●作用性の明確化。 ●適用条件の検討。 ●未登熟米（青米）減少効果。
13. タチガレン液 〔三 共〕	ヒドロキシイソキサゾール ……………30%	〔作用性〕 ①登熟促進効果の確認および適用条件の明確化（低温条件下、冷水灌漑）。 〔適用性〕 ①登熟効果の確認および適用条件の明確化（低温条件下、冷水灌漑）。	実・継	●出穂直前に500～1000倍液を150l/10a 茎葉散布。 適用地域：温暖地東部以北。	●作用性および適用条件の検討。
14. BAS-106 粒 〔BASF〕 〔ジャパン〕	5-（4-クロロフェニル）-3,4,9,10-ペンタアザテトラシクロ〔5,4,1,0 ^{2,6} ,0 ^{8,11} 〕ドデカ-3,9-ジエン ……………3.5%	〔作用性〕 ①作用性の確認（処理時期および薬量）。 ②処理時期および薬量と作用部位との関係。 ③施肥管理および処理時期と作用性との関係。 ④処理時期と作用部位および収量に対する影響。 ⑤土壌条件による効果の変動。 ⑥漏水の影響（土壌中の移動性）。 〔適用性〕 ①倒伏軽減。	継		●作用性の検討。 ●薬害の発生条件の検討（出穂前10日を中心とした処理で検討）。
15. CGR-811 粒 〔中外製薬〕	4-クロロ-2-（α-ヒドロキシベンジル）イソニコチンアミド ……………12%	〔作用性〕 ①薬量差。 ②処理時期による差。 ③温度差。 ④土壌差。 ⑤品種差。 〔適用性〕 慣行および多肥料施用による耐倒伏性向上効果。	継		●温度・薬量と反応性の検討。 ●土壌条件・残効性の検討。 （出穂前40日を中心とした処理で検討）。
16. NTN-821 粒 〔日本特殊農薬〕	成分未公開 ……………1%	〔作用性〕 ①倒伏軽減。 処理時期、薬量の検討。 〔適用性〕 倒伏軽減効果。	継		●作用性の明確化（出穂前10～14日を中心とした処理で検討）。

薬 剤 名 〔委 託 者〕	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
17. PP-333 粒 〔アイシーアイ ジャパン〕	成分未公開 ……………0.6%	〔作用性〕 ①水稻姿勢制御効果 (倒伏防止効果等) の検討。 〔適用性〕 ①倒伏防止効果等の 検討。	継		●作用性の明確化 (出穂前10～14日 を中心とした処理 で検討)。
18. S-327 粒 〔住友化学〕	トリアゾール系 ……………0.1%	〔作用性〕 ①節間伸長抑制による 倒伏軽減効果の検討。 〔適用性〕 ①倒伏防止効果の検討。	継		●作用性の明確化 (出穂前10～14日 を中心とした処理 で検討)。
19. R-452 乳 〔日産化学〕	2,3-ジクロロ- 5,6-ジメチル- 1,4-ジチン-1, 1,4,4-テトラオ キシド ……………24%	〔適用性〕 ①収穫時のモミ水分低 下および米質・収量 への影響。 ②収穫7～10日前散布 と収穫5～7日前散 布の比較。	継		●適用条件について 更に検討する。

畑 作 関 係

薬 剤 名 〔委 託 者〕	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1. C-MH 液 〔日本ヒド ラジン〕	マレイン酸ヒドラ ジドコリン ……………39%	〔適用性〕 ①塊茎貯蔵中の萌芽防 止。	実・継	●馬鈴薯の収穫前2～3 週間に80～120倍液 を茎葉散布(長野)。 北海道;試験実施中。	●効果の安定性につ いて確認。
2. HOK-811 水溶 〔北興化学〕	シアン酸ナトリウ ム ……………90%	〔適用性〕 ①馬鈴薯の茎葉枯凋剤 としての適用性の検 討。 ②収量への影響。	実・継	●茎葉黄変はじめに300 ～400g/a処理。	●処理時期の検討。
3. GF-030 液 〔日本グリ ンナー〕	マイクロクリスタ リンワックス ……………10%	〔適用性〕 ①生育中処理による糖 度上昇効果。	継?		●作用性の確認。

植 調 協 会 だ よ り

日時：昭和58年5月25日(水) 15～17時

場所：植調会館3階会議室(東京都台東区台
東1-26-6, TEL. 832-4188代)

◎ 会議開催日程のお知らせ

・第45回役員会

・昭和58年度農薬(作物・土壌)残留量分析委
員会(次表に掲げる通り)